

王蒙の『硬いお粥（‘坚硬的稀粥’）』

——翻訳とその解説（その②）

村松 恵子 張 静 菴

本文(10)

①儿子非常激昂地讲了一套理论：②“咱们家吃饭是四十年一贯制，不但毫无新意，而且有一条根本性的缺陷，碳水化合物过多而蛋白质不足。③缺少蛋白，就会影响生长发育，而且妨碍白血球抗体的再生与活力。④其结果，也就造成国民体质的羸弱与素质的低下。⑤在各发达国家，平均日摄取的蛋白质是我国人均日摄取量的七倍，其中动物蛋白，是我们的十四倍。⑥如此下去，个儿没人家高，体型没人家好，力气没有人家大，精神没有人家足。⑦人家一天睡一次，四、五个小时最多六个小时就够用了，从早到晚，精气神十足。⑧我们呢，加上午觉仍然是无精打采。⑨或者你们会说，我们不应与发达国家比。⑩那么，我要说的是，我们汉族的食品结构还比不上北方兄弟民族——总不能说兄弟民族的经济水准高于我们啊！⑪我们的蛋白质摄入量，与蒙古、维吾尔、哈萨克、朝鲜以及西南地区的藏族比，也是不能望其项背！⑫这样的食品结构，不变行吗？⑬以早餐为例，早晨吃馒头片稀粥咸菜……⑭我的天啊！⑮这难道是二十世纪八十年代的中华大城市具有中上收入的现代人的早餐？⑯太可怕了！太愚昧了！⑰稀粥咸菜本身就是东亚病夫的象征！就是慢性自杀！就是无知！就是炎黄子孙的耻辱！就是华夏文明衰落的根源！就是黄河文明式微的征兆！⑱如果我们历来早晨不吃稀粥咸菜而吃黄油面包，一八四〇年的鸦片战争，英国能够得胜吗？一八九〇年的八国联军，西太后至于跑到承德吗？一九三一年日本关东军敢于发动“九・一八”事变吗？一九三七年小鬼子敢发动卢沟桥事变

吗？日本军队打过来，一看，中国人一嘴的白脱——奶油，他们能不吓得整团整师的休克吗？如果一九四九年以后我们的领导及早下决心消灭稀粥咸菜，全国都吃黄油面包外加火腿腊肠鸡蛋酸奶干酪外加果酱蜂蜜朱古力，我国国力、科技、艺术、体育、住房、教育、小汽车人均拥有量不是早就达到世界前列吗？⑲说到底，稀粥咸菜是我们民族不幸的根源，是我们的封建社会超稳定欠发展无进步的根源！⑳彻底消灭稀粥咸菜！稀粥咸菜不消灭中国就没有希望！”

日本語表現(10)

①息子は激高しながら自分なりの理論を述べた。「②我が家の食事は40年間一貫制で、全く新しいものがないだけでなく、1つ根本的な欠陥がある。それは炭水化物が多すぎてタンパク質が不足していることである。③タンパク質が不足すると、発育成長に影響を与え、かつ白血球抗体の再生とその働きを妨害する。④その結果、国民の体質の瘦身脆弱と基礎体力低下にもつながる。⑤先進国においては、1日1人当たりの摂取するタンパク質の量は、我が国民の7倍であり、そのうち動物性タンパク質は、我々の14倍である。⑥もしこのような状態が続けば、彼らほど背は高くなく、体型も良くない、力も強くないし、気力も足りない。⑦彼らは1日に1回、4、5時間か、多くても6時間寝れば十分で、朝から晩まで気力は十分である。⑧我々はどうかと言えば、昼寝しても元気がない。⑨もししたら我々は先進国と比較するべきではない、とあなたたちは言うかもしれない。⑩

そこで私が言いたいのは、我々漢民族の食事の構成は北方の兄弟民族にも勝てないということである。——つまり兄弟民族の経済発展水準は我々漢民族より高いとは言えないのだ！ ⑪我々のタンパク質の摂取量は、モンゴル族、ウイグル族、カザフ族、朝鮮族および西南地区のチベット族と比較しても、その後ろについて行くことができない！ ⑫このような食事構成を変えなくていいのか？ ⑬朝食を例に挙げると、朝はマントウにお粥に漬物。⑭おお神よ！ ⑮これがまさか20世紀80年代の中国大都市中産階級家庭の現代人の朝食だなんて？ ⑯恐ろしすぎる！ 愚かすぎる！ ⑰お粥と漬物それ自体が病弱な中国人の象徴だ！ 慢性自殺だ！ 無知だ！ 炎帝と黄帝の子孫の恥だ！ 華夏文明の衰退の根源だ！ 黄河文明の式微の兆候だ！ ⑱もし我々がこれまでずっと朝食にお粥と漬物を食べないで、バターとパンを食べていたら、1840年のアヘン戦争にイギリスは勝つことができたでしょうか？ 1900年の8カ国連合軍は西太后を承德まで走らせたでしょうか？ 1931年に日本関東軍は“九・一八”事変を起こす勇気があったでしょうか？ 1937年に日本鬼子は盧溝橋事変を起こす勇気があったでしょうか？ 日本軍がやってきて、中国人がみんなバターを口にするのを見たら、軍隊中がショックで意識不明になったんじゃないでしょうか？ もし1949年以降我々の指導者がお粥と漬物を消滅させることを早めに決心し、全国民がバターとパンだけでなく、ハム、ソーセージ、鶏卵、ヨーグルト、チーズ、さらにジャム、ハチミツ、チョコレートを食べていたなら、我が国の国力、科学技術、芸術、体育、住宅、教育、自動車の一人当たりの所有量はとっくに世界の最前列になっていたのではないのでしょうか？ ⑲とにかく、お粥と漬物は我々民族の不幸の根源であり、我々封建社会の超安定、発展の欠如、進歩の無さの根源である！ ⑳徹底的にお粥と漬物を消

滅させよう！ お粥と漬物を消滅させなければ中国には希望はない！」

解説と鑑賞(10)

④ (表現)：‘羸弱’

‘羸’とは「痩せこけている」という意味だが、これは書き言葉の表現である。ここでは16歳の息子がわざと古い古典的な表現を用いて、学識のあるところを見せようとしている。

⑥ (修辞)：‘排比’と‘対偶’

ここでは‘没有’を用いた比較表現を4回繰り返すことによって、‘排比(繰り返し)’の手法を用いている。

(ア) 个儿 没 人家 高

(イ) 体型 没 人家 好

(ウ) 力气 没有 人家 大

(エ) 精神 没有 人家 足

この4つの表現はただ単に同じ表現形式を4回繰り返しているだけでなく、(ア)と(イ)では外観について、(ウ)と(エ)では内面について言い、それぞれ2個ずつ意味的にも形からも対句になっており、修辞の‘対偶’という手法も組み合わせられている。

⑧ -1 (社会)：昼寝の習慣について

‘午觉’とは「昼寝」のことであり、中国では80年代初めごろまで昼寝の習慣のある地域が多くあり、特に南方ではこの習慣が多く見られた。

⑧ -2 (表現)：‘无精打彩’

‘无精打彩’は四字成語で、元気が無く、意気消沈している様を言う。清代の長編小説『紅樓夢』の「第二十五回」や「第八十九回」などにこの表現が見られる。

⑩（社会）：‘北方’

中国では長江を分岐点として、それより北を‘北方’、それより南を‘南方’と呼んでいる。

⑪-2（表現）：‘望其项背’

これは四字成語で、人に追隨することを言う。

⑰-1（修辞）：‘排比’

ここでは述部が‘就是～’という表現で6回繰り返されている。その構成は以下の通りである。

- 稀粥咸菜本身
- (ア) 就是东亚病夫的象征!
 - (イ) 就是慢性自杀!
 - (ウ) 就是无知!
 - (エ) 就是炎黄子孙的耻辱!
 - (オ) 就是华夏文明衰落的根源!
 - (カ) 就是黄河文明式微的兆征!

⑰-2（歴史）：上記⑰-1の(ア)～(カ)について

- (ア) ‘东亚病夫（東亜病夫）’とは、日露戦争のとき、日本人が中国人のことを貶めて形容した言い方で、「中国人は病弱だ」という意味である。
- (イ) ‘慢性自杀’とは、中国は他の先進国より遅れていてつぶされてしまうと言う意味である。
- (ウ) ‘无知（無知）’は(イ)の‘慢性自杀’と合わせて、極めて弱体国家であることをくり返し表現している。
- (エ) の‘炎黄’→(オ)の‘华夏文明’→(カ)の‘黄河文明’の順に、文明をさかのぼった表現になっている。

⑱-1（修辞）：‘排比’と‘并列’

⑱では最初に年号を示し、文末に疑問の語気助詞‘吗?’を用いる形式が5回繰り返されて

いる。ここではこの‘排比（繰り返し）’の表現によって、19世紀後半から20世紀前半にかけての中国の歴史的事実が時系列順に並べられている。その構成は次の通りで、これは時間的に進んでいく‘递进式’という用法である。

如果我们历来早晨不吃稀粥咸菜而吃黄油面包，

- (ア) 一八四〇年的鸦片战争，英国能够得胜吗？
- (イ) 一九〇〇年的八国联军，西太后至于跑到承德吗？
- (ウ) 一九三一年日本关东军敢于发动“九・一八”事变吗？
- (エ) 一九三七年小鬼子敢发动卢沟桥事变吗？日本军队打过来，一看，中国人人一嘴的白脱——奶油，他们能不吓得整团整师的休克吗？
- (オ) 如果一九四九年以后我们的领导及早下决心消灭稀粥咸菜，全国都吃黄油面包外加火腿腊肠鸡蛋酸奶干酪外加果酱蜂蜜朱古力，我国国力、科技、艺术、体育、住房、教育、小汽车人均拥有量不是早就达到世界前列吗？

さらに(オ)では‘并列（並列）’の手法も用いられている。まず洋食品のオンパレードで、これらは80年代に入って中国でも一般的に食べられるようになっていった西洋食品である。

- (ア) 黄油（バター）
- (イ) 面包（パン）
- (ウ) 火腿（ハム）
- (エ) 腊肠（ソーセージ）
- (オ) 鸡蛋（鶏卵）
- (カ) 酸奶（ヨーグルト）
- (キ) 干酪（チーズ）
- (ク) 果酱（ジャム）
- (ケ) 蜂蜜（ハチミツ）
- (コ) 朱古力（チョコレート）

これに続いて、当時話題となったさまざまな分野のキーワードが並べられている。

- (シ) 国力（国力）
- (リ) 科技（科学技術）

- (す) 艺术 (芸術) (せ) 体育 (体育)
 (そ) 住房 (住宅) (な) 教育 (教育)
 (に) 小汽车 (自動車)

洋食品の最後は(に)‘朱古力(チョコレート)’,
 さまざまな分野のキーワードの最後は(に)‘小汽
 车(自動車)’というように、それぞれ三音節語
 が用いられており、その他はすべて二音節語を
 列挙し、合計で17個の単語が連続している。

⑱ -2 (歴史) :

‘一九三七年小鬼子敢发动卢沟桥事变吗?’
 の中にある‘小鬼子’とは、当時、中国大陸を
 侵略した日本人のことを中国人が呼んでいた呼
 び方である。このほか‘日本鬼子’とも呼ばれ
 ていた。

⑲ (修辞) : ‘并列’

ここでは‘并列(並列)’が用いられ、三音節
 の動詞句が3回連続している。

- (あ) 超 稳定 (安定しすぎ)
 (い) 欠 发展 (発展の欠如)
 (う) 无 进步 (進歩の無さ)
 (あ)の‘稳定(安定)’, (い)の‘发展(発展)’,
 (う)の‘进步(進歩)’は80年代に良く用いられ
 た語彙である。

本文(11)

①言者为之动火，听者为之动容。②我一则以
 惊，一则以喜，一则以惧。③惊喜的是不知不觉
 之中儿子不但不再穿开裆裤不再叫我去给他擦屁
 股而且积累了这么多学问，更新了这么大的观念，
提出了这么犀利的见解，抓住了这么关键的要害
 真是天若有情天亦老，人间正道是儿强！④真
 是身在稀粥咸菜，胸怀黄油火腿，吞吐现代化之
八方风云，覆盖世界性之四维空间，着实是后生
 可畏，世界归根结底是他们的。⑤惧的是小子两
 片嘴皮子一沾就把积弊抨击了个落花流水，赵括

谈兵，马谡守亭，言过其实，大而无当，清谈误
家，终无实用。⑥积我近半个世纪之经验，凡把
 严重的大问题说得小葱拌豆腐一清二白千军万马
 中取敌将首级如探囊取物易如掌都不用翻者，早
 晚会在亢奋劲儿过去以后患阳痿症的！⑦只此
 一大耳儿，为传宗接代计，实痿不得也！

日本語表現(11)

①語るものはこのために怒りを感じ、聞くも
 のはこのために感動の面持ちとなる。②私は一
 つには驚き、一つには喜び、一つには恐れた。
 ③驚き喜んだのは、知らないうちに、息子が幼
 児用ズボンを穿かなくなり、私にお尻を拭いて
 もらわなくなっただけでなく、こんなにもたく
 さんの学問を蓄積し、こんなにもスケールの大
 きな新しい観念を持ち、こんなにも鋭い見解を
 述べ、こんなにも肝心な急所をつかめたことは、
 ほんとうに天にもしも情があれば天も老い、人
 間の正道は息子が強い、ということだ！④ほ
 んとうに身体はお粥に漬物、胸にはバターとハ
 ムを抱き、現代的な八方風雲を吞吐して、グロー
 バルな四次元空間を覆っている。確かに後生畏
 るべしで、世界はとどのつまり彼らのものなの
 だ。⑤恐れたのは、息子が口を開けば積もり積
 もった弊害をこてんぱんに非難攻撃すること
 で、それはまるで趙括が兵法を語り、馬謖が亭
 を守るようなもので、話が誇大で、実際とかけ
 離れ、大きいだけで使いものにならず、清談は
 家を誤るで、結局は何の役にも立たない、とい
 うことだ。⑥私の半世紀に近い経験から言え
 ば、おおよそ重大な問題を簡単に白黒はつきり
 させて話したり、千軍万馬の戦場で敵の将軍の
 首を簡単に取れると言うような者は、遅かれ早
 かれ興奮したあと陰萎症にかかる。⑦たった一
 人の息子なんだから、代々子孫を残すために、
 どうしてもそんなことになってはいけないう！

①（修辞）：‘对偶’

‘言者为之动火，听者为之动容’は‘对偶（对句）’表現である。

②（修辞）：‘排比’

ここでは‘排比（繰り返し）’の手法が用いられ、同じ表現形式が3回繰り返されている。

- (ア) 我 一則 以 惊
- (イ) 一則 以 喜
- (ウ) 一則 以 惧

③と⑤（修辞）：‘对比’

②で‘我（わたし）’が‘儿子（息子）’に対して「驚き（惊）」、「喜び（喜）」、「恐れ（惧）」たことが述べられており、続けて③と⑤でその具体的な内容が‘对比’という手法を用いて表現されている。③の‘惊喜的是～（驚き喜んだのは）’と⑤の‘惧的是～（恐れたのは）’という表現がそれである。

③-1（社会）：‘开裆裤’

これは、中国で赤ちゃんのお締めが取れてから、だいたい2、3歳くらいまで履かせるズボンである。しゃがむとお尻の部分が開くようになっていたため、‘开裆裤’（股の開くズボン）と呼ばれている。

③-2（修辞）：‘二音節動詞+目的語’表現の‘排比’

‘我’の‘儿子（息子）’に対する「驚き（惊）」と「喜び（喜）」の内容が、「二音節動詞+目的語」の表現を4回繰り返して表現されている。

- (ア) 积累 了 这么多 学问
- (イ) 更新 了 这么大的 观念
- (ウ) 提出 了 这么犀利的 见解
- (エ) 抓住 了 这么关键的 要害

③-3（修辞）：‘天若有情天亦老，人间正道是儿强’

これは毛沢東の詩のパロディーである。下記の詩で、1949年4月に人民解放軍が南京を占領した記念に作られた七言律詩である。

钟山风雨起苍黄， 百万雄师过大江。
虎距龙盘今胜昔， 天翻地覆慨而慷。
宜将剩勇追穷寇， 不可沽名学霸王。
天若有情天亦老， 人间正道是沧桑。

この毛沢東の詩の最後の二字（“沧桑”）が、本文では“儿强”と書き換えられている。

④（修辞）：3回の‘对偶’表現

ここでは‘对偶（对句）’表現が3回連続して用いられている。

1回目：真是 身在 稀粥咸菜
胸怀 黄油火腿

2回目：吞吐 现代化之 八方风云
覆盖 世界性之 四维空间

3回目：着实质 后生可畏
世界 归根结底

1回目では、‘稀粥咸菜（伝統的なお粥と漬物）’と‘黄油火腿（バターとハム）’が対応した表現となっている。

2回目では‘八方风云’と‘四维空间’が対応した表現となっている。通常は‘三维空间（三次元の空間）’といい、‘四维空间（四次元空間）’という四字句表現はあまり用いないが、‘八方’とは‘四方（東西南北）’と‘四维（北東、南東、南西、北西）’を合わせたものことなので、‘八方风云’に対して‘四维空间’と表現している。

3回目では‘后生可畏’と‘归根结底’とが対応した表現となっている。

⑤ (修辞) : 四字句の7連続による‘排比’

‘小子两片嘴皮子一沾就把积弊抨击了个落花流水’では、息子の中国の伝統的慣習に対する批判振りを、四字成語を引用して‘落花流水(こてんぱんに非難攻撃する)’と表現している。そしてここではこの四字句に続いて、さらに6回四字句を連続させる(→赵括谈兵, 马谡守亭, 言过其实, 大而无当, 清谈误家, 终无实用)という‘排比’の修辞法によって、息子の無茶苦茶な批判の内容と、それに対する父親の評価を表現している。

この合計7回連続する四字句の中で成語となっているのは‘落花流水’, ‘言过其实’, ‘大而无当’の3つである。残りの4つの四字句(‘赵括谈兵’, ‘马谡守亭’, ‘清谈误家’, ‘终无实用’)は成語にはなっていないが、そのうち‘赵括谈兵’, ‘马谡守亭’, ‘清谈误家’の3つの四字句にはそれぞれ出典があり、それを踏まえて作者が創作したか、あるいは作り換えたパロディーである。以下でそれぞれ具体的に見ていく。

‘落花流水’: もともと晩春の過ぎゆく景色を表現したもので、現在ではこてんぱんに非難攻撃するさまを形容する。姚雪垠の小説『李自成』などに見られる。

‘赵括谈兵’: ‘赵括(趙括)’とは‘纸上谈兵(机上の空論)’という四字成語が作られるもととなった戦国時代の武将のことであり、兵法を談ずるのは得意だが実践はまるでだめという人物のことである。つまり16歳の息子の批判は「机上の空論」であるということの意味している。

‘马谡守亭’: ‘马谡(馬謖)’とは、諸葛孔明に可愛がられた三国時代の武将で、街亭の戦いに勝利できると豪語して敗れたために、若くして処刑された人物である。そしてこの人物に対しては「‘马谡用兵’—‘言过其实’」という‘歇后语(上の句を

言うだけで下の句を意味する表現)’がある。つまり‘马谡’が兵を用いるということは、話は大きい但实际上とかけ離れているという意味で、作者はこの‘歇后语’を踏まえて‘马谡守亭’と表現しているのである。

つまり16歳の息子の批判振りを四字成語の‘落花流水’で「こてんぱんに非難攻撃する」と表現し、それに続く2つの四字句によって、息子の批判の内容を‘赵括谈兵’=「趙括が兵法を談ずるようなものだ」と“马谡守亭”=「馬謖が亭を守るようなものだ」というように具象化して表現している。

そしてそれに続く4つの四字句(‘言过其实’, ‘大而无当’, ‘清谈误家’, ‘终无实用’)では、この息子の批判に対する父親の評価を表現している。

‘清谈误家’: ‘清谈误国’という四字成語をもとにして作者が作り変えたパロディーである。‘清谈’とは、魏晋南北朝時代の知識人が空論を談じたことを言うが、現在では空理空論を意味している。つまり‘清谈误国’とは「空理空論は国を誤る」という意味で、ここではこの家族のことを言うために‘清谈误家’=「空理空論は家を誤る」と言い換えているのである。

⑥-1 (修辞) : ‘歇后语’

‘小葱拌豆腐’は‘歇后语(上の句を言うだけで下の句を意味する表現)’である。豆腐に青ネギを混ぜる(‘小葱拌豆腐’)と白と青の色のコントラストが明確であることから、「極めてはっきりしていること(‘一清二白’)」を意味する。

⑥-2 (修辞) : 四字成語のパロディー

‘千军万马中取敌将首级如探囊取物易如掌都

不用翻’で言っているのは、「千軍万馬の戦場で敵の将軍の首を取ることは通常は容易なことではないが、それは手のひらを返す必要もないほど簡単な事だ（‘易如掌都不用翻’）」ということである。‘易如掌都不用翻’は‘易如反掌（手のひらを返すように簡単な事）’という四字成語をもとにして作者が言い換えたものである。

本文(12)

①果然，堂妹鼻子眼里哼了一声，嘟囔道：②“说得倒便利！要是那么多黄油面包，我看现代化也就完成了！”

③“啊？”儿子正在气盛之时，大叫：④“好家伙！六十年代尼·谢·赫鲁晓夫提倡土豆烧牛肉的共产主义，八十年代，姑姑搞面包加黄油的现代化！何其相似乃尔！⑤现代化意味着工业的自动化、农业的集约化科学的超前化、国防的综合化、思维的任意化、名词的难解化、艺术的变态化、争论的无边化、学者的清淡化、观念的莫名化和人的硬气功化即特异功能化。⑥化海无涯，黄油为楫。乐土无路，面包成桥！⑦当然，黄油面包不可能像炸弹一样地由假想敌投掷过来，这我还不知道么？⑧我非弱智，岂无常识？⑨但我们总要提出问题提出目标，国之无目标犹人之无头，未知其可也！”

⑩“好嘛好嘛，大方向还是一致的嘛，不要吵了。”⑪爷爷说，大家便不再吵。

⑫吾儿动情图治，第二天，果然，黄油面包摊生鸡蛋牛奶咖啡。⑬徐姐与奶奶不吃咖啡牛奶，叔叔给她们主意用葱花炆锅，加花椒、桂皮、茴香、生姜皮、胡椒、紫菜、干辣椒，加热冒烟后放广东老抽一虾子酱油，然后用这些滷子加到牛奶咖啡里，压服牛奶咖啡的洋气腥气。⑭我尝了一口，果然易于承受接受多了。⑮我也加滷子，看到儿子的杀人犯似的眼神，才为子牺牲口味，硬灌洋腥热饮。⑯唉，“四二一”综合症下的中国小皇帝呀！他们会把我国带到哪里去？

日本語表現(12)

①案の定、従妹は鼻でフンと言い、ブツブツ言った。②「言うのは簡単よ！もしそんなにたくさんバターやパンがあったら、現代化も完成したはずよ。」

③「えっ？」息子は精力旺盛に、大声で言った。④「何だって！60年代にフルシチョフはじゃがいもと牛肉の焼き物の共産主義を提唱し、80年代におばさんはパンとバターの現代化をやるうなんて！なんて似ているんだろう？」

⑤現代化は工業の自動化、農業の集約化、科学の先取り化、国防の総合化、思考の任意化、名詞の難解化、芸術の変態化、論争の無限化、学者の清淡化、観念の意味不明化と人間の硬気功化すなわち超能力化を意味している。⑥何々化の海には限がなく、バターが船の楫になる。楽土には道がなく、パンが楫となる！⑦当然、バターやパンは爆弾のように仮想した敵が投げてくるようなものではないということぐらい僕だって知っているさ！⑧僕は知恵遅れではないから、どうして常識がないということがあろうか？⑨しかし我々は常に問題を出し目標を定めなければならない。国に目標がないのは人に頭がないようなもので、そんなことはだめなんだ！⑩「もういいよ、もういいよ、大きな方向はみんな一致しているんだから、言い争いはやめなさい。」⑪おじいちゃんがこう言うと、みんな静かになった。

⑫息子は意気込んでやろうとし、翌日は案の定、バタートースト目玉焼きミルクコーヒーだった。⑬徐ねえさんとおばあちゃんはコーヒーやミルクを飲まない。そこで叔父が、葱のみじん切りをさっと油で炒め、そこに山椒、桂皮（シナモン）、茴香（ウイキョウ）、生姜の皮、胡椒、紫のり、干し唐辛子を加え、加熱して煙が出たら広東老抽（えび醤油）を入れ、そのあとこれらのどろどろしたものをミルクやコーヒーの中に入れて、ミルクやコーヒーのバタ臭

さを抑えることを彼らに提案した。⑭それを一口飲んでみると、確かにだいぶ飲みやすくなった。⑮私もそのどろどろしたものを自分のミルクの中に入れたかったが、息子の人殺しのような目つきを見て、やはり息子のために味を犠牲にし、バタ臭い生臭い熱い飲み物を無理やり流し込んだ。⑯ああ、“四二一”症候群下の中国小皇帝よ！ 彼らは我が国をどこへ導いて行くのだろう？

解説と鑑賞⁽¹²⁾

④-1 (社会)：‘尼・谢・赫鲁晓夫’

‘尼・谢・赫鲁晓夫’というのは、60年代当時のソ連共産党第一書記のフルシチョフのことであり、「・」で少し伏字にしてある。

④-2 (修辞)：‘隐喻’

この時代のソ連共産主義を‘土豆烧牛肉的共产主义（じゃがいもと牛肉の焼き物の共産主義）’、80年代の中国の現代化を‘面包加黄油的现代化（パンとバターの現代化）’と、‘隐喻（隐喻）’の方法で皮肉っている。

⑤ (修辞)：‘并列’

ここでは‘并列（並列）’が用いられ、漢字6文字の‘…的～化（…の～化）’という表現が12個連続している。

- (あ) 工业的自动化（工業の自動化）
- (い) 农业的集约化（農業の集約化）
- (う) 科学的超前化（科学の先取り化）
- (え) 国防的综合化（国防の総合化）
- (お) 思维的任意化（思考の任意化）
- (か) 名词的难解化（名詞の難解化）
- (き) 艺术的变化化（芸術の変態化）
- (く) 争论的无边化（論争の無限化）
- (け) 学者的清淡化（学者の清談化）
- (こ) 观念的莫名化（観念の意味不明化）

(さ) 人的硬气功化（人間の硬気功化）

(し) 即特异功能化（超能力化）

これらの表現はすべて実際に80年代の中国の新聞にしばしば登場したか、あるいはそれを少し言い換えたものである。

⑥ (修辞)：‘パロディー’

‘化海无涯，黄油为楫’と‘乐土无路，面包成桥’には出典がある。それは‘书山有路勤为径，学海无涯苦作舟’で、それぞれこの表現のパロディーである。

‘书山有路勤为径’とは「本の山には路があり、勤勉が路となる」、‘学海无涯苦作舟’とは「学問には限がなく、苦勞を船にして渡る」という意味である。

‘化海无涯，黄油为楫’（何々化には限がなく、バターが船の櫂となる）は‘学海无涯苦作舟’（学問には限がなく、苦勞を船にして渡る）のパロディーである。

‘乐土无路，面包成桥’（楽土には路がなく、パンが橋となる）は‘书山有路勤为径’（本の山には路があり、勤勉が路となる）のパロディーである。

この七語詩の表現は昔から民間で言われていたもので、若い人の勉学意欲を鼓舞するために学校でもよく教える表現である。

⑬ (社会)：‘炆锅’と一般的調味料

‘炆锅’とは中華料理独特の調理方法で、料理を美味しくするために、まず主菜を油で炒める前に、ネギなどを油で炒めて香りを出す調理法である。

また、‘花椒’（＝山椒）、‘桂皮’（＝シナモン）、‘茴香’（＝ウイキョウ）、‘生姜皮’（＝生ショウガの皮）、‘胡椒’（＝コショウ）、‘紫菜’（＝紫のり）、‘干辣椒’（＝干し唐辛子）、‘广东老抽一虾子酱油’（＝えび醤油）などは中国の一般的で伝統的な調味料である。ここではまずネギを

油で炒めて香りを出した後、これらの調味料をさらに油で炒め、それらをミルクやコーヒーの中に加えたということになる。

⑩（社会）：‘四二一’综合症下的中国小皇帝

‘四二一’は、中国が国策として1979年から実施した一人っ子政策によって、各世代が半分の人数となっていくことを表現したものである。

- 四 → 爷爷（父方祖父）+ 奶奶（父方祖母）+ 外祖父（母方祖父）+ 外祖母（母方祖母）
- 二 → 爸爸（父親）+ 妈妈（母親）
- 一 → 儿子（小皇帝）

本文(13)

①三天之后，全家震荡。②徐姐患急性中毒性肠胃炎，住院并疑有并发肠胃癌症。③奶奶患非甲非乙型神经性肝硬化。④爷爷自吃西餐后便秘，爸爸与叔叔两位孝子轮流侍候，用竹筷子粉碎捅导，收效甚微。⑤堂妹患肠梗阻，腹痛如绞，紧急外科手术。⑥堂妹夫牙疼烂嘴角。⑦我妻每饭后必呕吐，把西餐吐光后回娘家偷偷补充稀粥咸菜，不敢让儿子知道。⑧尤为可怕的是，三天便花掉了过去一个月的伙食费。⑨儿子声称，不加经费再供应稀粥咸菜亦属不可能矣！⑩事已至此，需要我出面，我找了爸爸叔叔，提出应立即解除儿子的权柄，恢复家庭生活的正常化！

⑪爸爸和叔叔只有去找爷爷，爷爷只有去找徐姐。⑫而徐姐住院，并且声明她出院以后也不再做饭了，如果人们感到她没用，可以赶走她。⑬爷爷只得千声明万表态，绝无此意，而且重申了自己的人生原则。⑭人生在世，情义为重，徐姐在我家，情义俱全，比爷爷的嫡亲还要亲，比爷爷的骨肉还要近。⑮徐姐在我们这里一天，我们就与徐姐同甘共苦一天。⑯哪怕家里只剩了一个馒头，一定有徐姐的一瓣。⑰哪怕家里只剩了一碗凉水，一定有徐姐的三勺。⑱发了财有徐姐的好处。⑲受了穷有徐姐的安置。⑳岂有用完了人家又

把人蹬掉之理哉！⑲爷爷说得激动，慷慨陈词，热泪横流。徐姐听得仔细，肝胆俱暖，涕泪交织。⑳最后被医护人员认定他们的接触不利于病人康复，便劝说爷爷含泪退去。

{日本語表現(13)}

①3日後、我が家は大変なことになった。②徐ねえさんは急性中毒性胃腸炎を患い、入院して合併症性胃腸ガンの疑いもあった。③おばあちゃんは非A非B型肝炎神経性肝硬変にかかった。④おじいちゃんは洋食を食べてから便秘になり、おとうさんと叔父の2人の孝行息子が毎日交代で世話をし、箸でお尻の穴をつついてもほとんど効果がない。⑤従妹は腸閉塞になって、お腹に激痛が走り、緊急外科手術を受けた。⑥その夫は歯痛と口内炎になった。⑦妻は毎食後必ず吐き、食べた洋食を全部吐いたあと実家に帰ってこっそりとお粥と漬物を補充し、息子に知られないようにした。⑧最も恐ろしいのは、3日間で過去1ヶ月間の食費を使ってしまったことだ。⑨息子は、経費を追加せずに粥と漬物も供給することは不可能だ、と公言した。⑩事すでにここに至りで、私が出る幕となり、おとうさんと叔父さんに、すぐに息子の権限を取り除き、家庭生活の正常化を回復しなければならぬ、と提案した。

⑪おとうさんと叔父さんはおじいちゃんのところへ相談に行くしかなく、おじいちゃんは徐ねえさんのところへ相談に行くしかなかった。⑫しかし徐ねえさんは入院していて、しかも、退院後は二度と食事を作らない、もしみんなが自分を必要としないなら、自分を追い出しても構わない、と声明した。⑬おじいちゃんはやむをえず、絶対にそんな気持ちはないということをおねえさんに何度も表明し、さらに自分の人生の原則をあらためて表明した。⑭人間はこの世にあっては、義理と人情が大切だ。徐ねえさんが我が家において、義理と人情がすべてである。

おじいちゃんの父系の肉親よりも肉親であり、おじいちゃん一族よりも近い。⑮徐ねえさんが我が家にたとえ一日でも居れば、私たちは徐ねえさんと苦楽を共にする。⑯たとえ家にマントウが1つしか残っていないとしても、必ず徐ねえさんの分があり、たとえ家に茶碗1杯の水しか残っていないとしても、必ず徐ねえさんのスプーン3杯分の水がある。⑰金持ちになったら徐ねえさんの分もあり、貧乏になっても徐ねえさんの居場所がある。⑱どうして使い終わった人をのけ者にするということがあろうか！⑲おじいちゃんは興奮しながらしゃべり、熱い涙を流しながら激昂した。徐ねえさんは真剣におじいちゃんの話聞き、心が暖まり、涙と鼻水が混ざり合うぐらい泣いた。⑳最後には医者や看護師に、徐ねえさんがおじいちゃんと面会するのは病氣回復に不利であると判断され、おじいちゃんは涙ながらに病院を後にした。

解説と鑑賞(13)

⑭-1 (表現)：‘人生在世’

‘人生在世’は四字成語で、「人はこの世に生きる」という意味である。『三国演义 第1回』にこの表現が見られる。

⑭-2 (修辞)：‘对偶’

ここでは‘对偶(对句)’表現が連用されており、(ア)と(イ)、(ウ)と(エ)がそれぞれ対句になっている。

- (ア) 人生在世，情义为重
- (イ) 徐姐在我家，情义俱全
- (ウ) 比爷爷的嫡亲还要亲
- (エ) 比爷爷的骨肉还要近

⑮ (表現)：‘同甘共苦’

‘同甘共苦’は四字成語で、「苦楽を共にする」という意味である。前漢末の歴史書『戦国策』

や明代の伝奇小説『剪灯余話』などにこの表現が見られる。

⑯, ⑰, ⑱ (修辞)：‘对偶’

⑯から⑱までで、対句表現が3回連続している。

- ⑯(ア)哪怕家里只剩了一个馒头，一定有徐姐的一瓣。
- (イ)哪怕家里只剩了一碗凉水，一定有徐姐的三勺。

⑰(ウ)发了财有徐姐的好处。

(エ)受了穷有徐姐的安置。

⑱(オ)爷爷说得激动，慷慨陈词，热泪横流。

(カ)徐姐听得仔细，肝胆俱暖，涕泪交织。

本文(14)

①爷爷回家召集了全体会议，声明自己年迈力衰，对于吃什么怎么吃及其他有关事宜无成见，更无意独揽大权，但你们一定要找我，我只有去找徐姐。②徐姐又因你们的怨言而寒了心，因吃重孙子的西餐而寒了肠胃，我也就无法再管了，谁爱吃什么吃什么吧，“我自己没的吃，饿死也好”。爷爷说。

③大家面面相觑，纷纷表态。④都说还是爷爷管得好，半个世纪了，老少平安，四代和睦。⑤堂妹妹表示她准备每天给爷爷做饭吃。⑥就是说，她、妹夫、爷爷、奶奶、徐姐是一组，吃他们自身的饭。⑦爸爸声明，他可以与妈妈一组，但不管我和妻。⑧因为我和妻有一个新潮的儿子，不可能与他们吃到一块儿。⑨我也声明只和妻一搭。⑩然后叔叔婶婶一搭。⑪然后儿子单奔儿。⑫堂妹见状，似乎相当满意，发挥了一句：“各吃各的吧，这样才更现代些！四世同堂一起吃饭，太像红楼梦时候的事了。再说，太多的人围着一个桌，又挤，又容易传染肝炎哟！”⑬堂妹反问：“在美国，有这样大的家庭吗？有这

么好几代人克服掉‘代沟’一起吃饭的吗？”⑭
爷爷的表情似乎有些凄然。

日本語表現(14)

①おじいちゃんは家に帰ると家族会議を召集し、自分は年をとって力が衰え、何を食べるか、どうやって食べるか、そのほか食べることに關して全く決まった考えはなく、また権力を独占する気もない、しかしお前たちが相談に来れば、自分は徐ねえさんに相談に行くしかない、と述べた。②徐ねえさんはお前たちの恨み言によって嫌になり、曾孫の西洋料理を食べて胃腸を壊してしまったし、自分ももう二度と関わることはできない。みんなそれぞれ食べたいものを食べなさい。「私は食べるものがなくて、飢え死にしたっていいんだ」、とおじいちゃんと言った。

③みんなはお互いに顔を見合わせ、次々と態度を明らかにした。④やはりおじいちゃんを取り仕切った方がよかった、半世紀の間、年寄も若者も平安に、四世代仲睦まじく過ごしてきた、と全員が言った。⑤従妹は毎日おじいちゃんのためにご飯を用意するという意思を示した。⑥つまり、従妹、従妹の夫、おじいちゃん、おばあちゃん、徐ねえさんが1つのグループとなつて、自分達の食事を食べることにした。⑦父は、母と1つのグループになつてもいいが私と妻には関わない、と宣言した。⑧なぜなら私と妻には新しい考え方を持つ息子がおり、彼らとはいっしょの食事ができないからだ。⑨私も妻とだけ組むと宣言した。⑩そのあと叔父と叔母が組んだ。⑪そして息子は一人だけになった。⑫従妹はこの状況を見て、相当満足した様子で、次のような論を展開した。「それぞれに食べましょう、そうすればもっと現代的だわ！ 四世代がいっしょに食事するなんて、全く紅樓夢の時代のことよ。もっと言えば、たくさんの人が1つのテーブルを囲むなんて、窮屈だし、肝炎

に感染しやすいわ！」⑬従妹はさらに反問した。「アメリカにはこんな大家族があるのかしら？こんなに何世代もの人が‘世代間のギャップ’を克服していっしょに食事をするところがあるのかしら？」⑭おじいちゃん表情はちょっと寂しそうだつた。

解説と鑑賞(14)

③（修辞）：四字句の連続表現

ここでは‘面面相覷’と‘纷纷表态’の2つの四字句が連続して用いられている。このうち‘面面相覷’は四字成語であり、「お互いに顔を見合わせる」という意味で、魯迅の『故事新編』などで用いられている。

④（修辞）：四字句の連続表現

ここでも‘老少平安’と‘四代和睦’の四字句が連続して用いられている。

本文(15)

①分开吃了两天就吃不下去了。②十一点多，堂妹这一组点着火做饭，由于挟爷爷之资格威重，别人只能望火兴叹。③然后爸爸、然后叔叔。④然后我能做饭时已经下午二时，只好不做先去上班，然后晚饭同样是望灶兴叹。⑤然后讨论议论论证各置一灶的问题。⑥煤气罐不可能，上次为解决全家共用的一个煤气罐，跑人情十四人次，请客七次，送画二张，送烟五条，送酒八瓶，历时十三个月零十三天，用尽了吃奶拉屎之力。⑦买蜂窝煤火炉也须手续，无证买不到煤。⑧有证买到煤了也没有地方搁。⑨如果按照现代意识设四个灶，首先要扩张厨房面积三十平方米，当然最好是设立四个厨房，比最好更好是再增加五套房子，人的消费要求真如脱缰野马，怪道报报谈消费过热，愈谈愈热。⑩于是恍然不盖房子而谈现代意识观念更新隐私权云云全他妈的是站着说话不腰疼的扯淡！

日本語表現(15)

①それぞれのグループに分かれて食事をしたら2日で続かなくなった。②11時過ぎ、従妹のグループが火を付けてご飯を作り始めたとき、おじいちゃんがかわっているという威厳のおかげで、他の人たちはただ火を遠くから見てため息をつくことしかできなかった。③そしてお父さん、そしておじさん。④私がお飯を作ることができたのはすでに午後2時で、食事をせずに職場へ行くしかなかった。そして夕飯も同様にかまどを遠くから眺めてため息をつくしかなかった。⑤それから各グループが1つづつかまどを持つ問題について、あれこれ討論し議論した。⑥プロパンガスボンベは無理だ。この前、家族全員で1つのプロパンガスボンベを使用する問題を解決するために、14回も人に頼みかけずり回り、7回食事に招待し、掛け軸を2幅、タバコを5カートン、お酒を8本贈り物にし、13ヶ月と13日かけて、最大の力を尽くした。⑦練炭の七輪を買うにも手続きが必要だし、証明書が無ければ練炭も買えない。⑧証明書があつて練炭を買えたとしても、置く場所が無い。⑨もしも今風の考え方に合わせてかまどを4つ設置するなら、まず台所の面積を30平方メートル拡大しなければならない。当然一番いいのは台所を4つ設置することであるが、これよりもっといいのは、5部屋増築することである。人間の消費の欲求というのは、ほんとうに手綱を振り切った野生の馬のようで、その暴走をとめることはできない。メディアが消費を煽れば煽るほどそれが勢いを増すのもっともなことだ。⑩そこで、住宅を建設せずに、現代的な考えとか、観念を新しくするとか、プライバシーの権利などを語ることは、立ったまま話しても腰が痛くないというようなバカげた話だということに、突然気がついた。

解説と鑑賞(15)

⑥-1 (修辞) : '排比'

ここでは四音節語(動詞+目的語+数詞+量詞)を4回繰り返す表現が用いられている。

動詞+目的語+数詞+量詞

- | | | | | |
|-----|---|---|---|---|
| (ア) | 请 | 客 | 七 | 次 |
| (イ) | 送 | 画 | 二 | 张 |
| (ウ) | 送 | 烟 | 五 | 条 |
| (エ) | 送 | 酒 | 八 | 瓶 |

⑥-2 (修辞) : '比喻'

‘吃奶拉屎之力’は直訳すれば「乳を飲み、大便をする力」であり、「持っている最大の力」ということの譬えである。

⑨ (修辞) : '比喻'

‘脱缰野马(手綱を振り切った馬)’は‘脱缰的野马一拉不回头’という‘歇后语(上の句を言うだけで下の句を意味する表現)’で、その意味は「何の束縛も無い」ということである。

本文(16)

①分灶软科学没有研究出子丑寅卯，一罐子煤气九天用完了。②自从今年液化石油气限量，一年只有十几个票，只有一罐气用二十五天以上才能保证全家用熟食，饮开水。③九天用完，一年的票四个月用完了，另外八个月找谁去？④不但破坏了自己的生活秩序，更是破坏了国家的安排！

⑤众人惊慌，唉声叹气，牢骚满腹，闲言四起。⑥有的说煤气用完以后改吃生面糊糊。⑦有的说可以限制每组做饭时间十七分钟。⑧有的说现在就分灶吃饭是生产关系超越了生产力的发展水平。⑨有的说越改越糟还不如爷爷掌管徐姐当政。⑩有的抨击美国，说美国人如禽兽，不讲孝悌忠信，当然没有大家庭。⑪我们有优秀的家庭道德传统，为什么要学美国呢？⑫大家不好意思也不忍再去打搅爷爷，便不约而同地去找堂妹夫。

日本語表現(16)

①かまどを分けるというソフトな科学は何の解決にもならず、プロパンガスボンベ1缶は9日間で使ってしまった。②今年からプロパンガスは量が制限され、配給チケットは1年でたった10数枚しかなく、1缶を25日以上使って、やっと家族全員が調理したものを食べることができ、お湯を飲むことができる。③1缶を9日間で使ってしまったら、1年分の配給チケットは4ヶ月で使ってしまうことになる。残りの8ヶ月はどうしよう？ ④自分の生活秩序を壊すだけでなく、国全体の秩序も壊すことになってしまう！

⑤みんなは驚き慌て、ハーとため息をつき、不満をこぼしたり、関係ない話をあちこちでしたりした。⑥ある者は、プロパンガスを使いきったら小麦粉を糊状にして食べる、と言った。⑦ある者は、各グループが調理をする時間を17分間に制限する、と言った。⑧ある者は、今かまどを分けて食事するという事は生産関係が生産力の発展水準を超えたからだ、と言った。⑨ある者は、改革すればするほど混乱し、おじいちゃんが管掌して徐ねえさんが実行する方がよかった、と言った。⑩ある者は、アメリカ人は禽獣のように孝悌忠信を重んじない、当然大家族はない、と言ってアメリカを攻撃した。⑪私たちには優れた家庭道德の伝統がある、どうしてアメリカを学ばなければならないのだろうか？ ⑫みんなはもうこれ以上おじいちゃんの邪魔をするのは申し訳ないと思ひ、期せずして従妹の夫を訪ねることにした。

解説と鑑賞(16)

① (修辞)：‘比喻’

‘子丑寅卯’とは十二支の中の最初の4つのことで、これは物事の順序や条理ということを比喩した表現である。

本文の‘分灶炊科学没有研究出子丑寅卯’は、「かまどを分けるというソフトな科学は、物事の条理（‘子丑寅卯’）を探求しない→何の解決にもならない」ということである。

② (社会)：‘票’

1980年代当時、プロパンガスボンベも配給制で、‘票’というのはその配給チケットのことである。

⑤-1 (修辞)：四音節語の‘排比’

ここでは四音節語を4回繰り返す表現が用いられている。

- (ア) 众人惊慌
- (イ) 唉声叹气
- (ウ) 牢骚满腹
- (エ) 闲言四起

⑥⑦⑧⑨ (修辞)：‘排比’

⑥から⑨では、‘有的说～’という表現が4回繰り返されている。

⑩ (社会)：‘孝悌忠信’について

儒教の伝統的道德観で、それぞれ‘孝’は父母を敬うこと、‘悌’は兄を尊敬すること、‘忠’は君主に忠誠であること、‘信’は友人に対して信用を重んじることを言う。

⑫ (表現)：‘不约而同’

四字成語で、事前に打ち合わせをしたり相談したりすること無く、考え方や行動が完全に一致することを言う。